

平成 2 9 年度第 3 回

八王子市総合教育会議議事録

日 時 平成 3 0 年 2 月 1 4 日 (水)
場 所 事務棟 8 階 8 0 1 会議室

第3回総合教育会議次第

1. 日 時 平成30年2月14日(水)
 2. 場 所 事務棟8階801会議室
 3. 議 題
 - (1) 平成30年度当初予算(案)における教育・子育て等関連事業について
 - (2) 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査について
-

八王子市総合教育会議

構成員(5名)

八王子市長		石 森 孝 志
八王子市教育委員会	委員長	安 間 英 潮
八王子市教育委員会	教育委員	村 松 直 和
八王子市教育委員会	教育委員	柴 田 彩千子
八王子市教育委員会	教育委員	笠 原 麻 里

説明員

総合経営部長	小 山 等
財務部長	立 花 等
子ども家庭部長	豊 田 聡
学校教育部長	廣 瀬 勉
学校教育部指導担当部長	山 下 久 也
生涯学習スポーツ部長	瀬 尾 和 子
図書館部長	石 黒 みどり

事務局

総合教育会議専門管理官	野 村 みゆき
総合経営部経営計画第二課長	丸 山 悟
教育部学校教育政策課長	橋 本 盛 重

【午後1時30分開会】

○野村管理官 お待たせいたしました。只今から、平成29年度第3回八王子市総合教育会議を開催いたします。

本日、大橋教育委員から欠席のご連絡をいただいておりますので、このメンバーで進めてまいります。

○野村管理官 それでは、最初に、市長からご挨拶をお願いいたします。

○石森市長 皆様、こんにちは。平成30年が幕を開けまして、今日は初めての会議となりますけれども、第3回総合教育会議にご出席いただきまして、大変ありがとうございます。

ちょっと花粉症で、何か、鼻が通りが悪いというか、そんなことでちょっと声が出づらいんですけども、お許しをいただきたいと思いますが、もう2月中旬ということで、八王子市内もさまざまなイベントが開催されております。

一昨日は、今年二度目の成人式を挙行いたしました。ご承知のように、1月8日の成人式の日、晴れ着レンタル業者が夜逃げをいたしまして、新成人が途方に暮れるというような、そんな事件がございまして、それを受けて、もう一度、晴れ着を着ていただいて、新成人の笑顔が見たいと、そんなことで市民の皆様が実行委員会を立ち上げまして、一昨日、この成人式が実現いたしました。

来年、再来年の成人を迎える方も被害に遭われたということなのですが、そのうちの66名の皆様に京王プラザホテルにお越しいただいて、ヘアメイク、そして晴れ着の着つけ、こういったものを行っていただいて、そのうちの10名の方は、夜、成人式に出席していただきました。

私からは、いろいろ人生困難がありますけれども、ぜひ、それを乗り越えて、素晴らしい人生を送っていただきたい、そんなお話をさせていただいたところでございます。

また、市制100周年事業も、ほぼ終息をいたしました。2月4日、「子どもミライフフォーラム」、グランドフィナーレをもって全ての事業が終了し、あと、タイムカプセルを富士森公園に埋めるというイベントがありますけれども、ほとんどの事業が終了いたしました。

9月から1か月間かけての「全国都市緑化はちおうじフェア」も、多くの行事に、子どもたちに参加していただいて盛り上げていただきました。

また、八王子の八にちなんだ八つのテーマでのビジョンフォーラムを開催してまいりまして、その中では、子どもたちから、提言、意見等、大変貴重なものをいただきました。

後ほどお話がありますけれども、そのうちの一つを新年度の予算に組み入れた、そんな形にしております、引き続き、子どもたちの貴重な意見等も、予算、あるいは市政に反映していきたいと思っております。

今日は新年度予算についてご説明をさせていただいて、また、皆様方からさまざまなご意見を頂戴できればと、そのように思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○野村管理官 ありがとうございます。

続いて、教育長、お願いいたします。

○安間教育長 こんにちは。市長からお話がありましたけれども、市民の力で行われたお祝いの式典、私も参加してまいりましたけれども、もう本当につくづく温かいなということを感じました。ご本人たちは、おせっかいおじさん、おばさんと、ご自身のことをおっしゃっていたんですけれども、本当に心温まる時間でございました。

担当の者が参加した方々のお声を聞くと、この式そのものの温かさというのものもあるんだけど、八王子というまちが温かいまちなんだなという感想を皆様おっしゃっていらっしゃった、それが印象的でした。

私、ぜひ、このエピソードを校長の講話等を通じて、八王子の子どもたち全員に伝えたい。子どもたちに、八王子というのはそういうまちなだよ、皆があなたたちの応援団なんだ、温かく見守っているんだよということを、ぜひ、伝えてあげたいなと思っております。年度内には、必ずそれは実現していきたいと思っております。

一方で、今、同様に市長のほうからお話がありましたけど、今年、市制100周年の記念の行事でさまざまな機会を与えていただきました。

子どもたちにとって、自分たちが提案したものが1つでも本当に形になるんだというのは本当にうれしいだろうなと思います。

常々、私どもが目標としております、子どもたちの自尊感情、自己肯定感と自己有用感を高めていこうという、そういう機会になったんじゃないかなと考えております。

おかげさまで、2年前と比べて、自分には良いところがあると答える子どもたちが若干増えまして、小学生の8割の子、中学校は7割の子がそう思うようになってくれました。これもそういう取り組みの成果なんじゃないかなと考えてございます。今後とも、引き続き、未来を作る子どもたちに対して、市長がいろんな場面でおっしゃる郷土愛、この育成を中心に、先ほど申し上げた自尊感情を高める取り組みを全力で進めてまいりたいと考えてございます。

本日も、この総合教育会議での協議、調整を通じまして、より一層、市長と我々教育委員会との間で連携・協力をしながら、教育行政を進めてまいりたいと思っております。

どうか、よろしくお願いいたします。

○野村管理官 ありがとうございます。

それでは、本日の署名委員を決めます。出席者名簿の4番目、柴田委員にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○野村管理官 資料を確認します。

1枚目に「次第」、それと「出席者名簿」、資料1「平成30年度当初予算（案）における教

育・子育て等に関連する新規・充実事業（抜粋）」というものが1つ。

資料2、「平成28年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」について」とございます。

それでは、協議に入りたいと思います。

本市の基本計画、「八王子ビジョン2022」の見直しをしているところでございますが、その説明と、それから平成30年度から32年度までの実施計画であるアクションプランについて、総合経営部長からご説明をお願いします。

総合経営部長、お願いいたします。

○小山総合経営部長　総合経営部長の小山でございます。よろしくをお願いいたします。

私から、口頭になりますけれども、今、司会の専門管理官からお話がありましたように、基本計画と基本計画を実施するアクションプランについてご説明をさせていただきます。

基本計画「八王子ビジョン2022」ですが、今年度の第1回のこの総合教育会議でも市長から説明をさせていただきましたけれども、ちょうど平成25年度から34年度の計画の、平成29年度が中間年に当たるということで、これまでの内容の成果と、この5年間にいろいろな新たな課題が顕在化しているところが出てきておりますので、そういうものも踏まえた形で見直しの作業をしているところでございます。

八王子市でいえば、一番大きいのはやはり平成27年度に中核市に移行したということでございます。また、この総合教育会議の関連で言いますと、例えば子どもの貧困ですとか、そういう問題が、策定当時にはまだ、実際に問題はあったんですけども、ここまで社会問題化していなかったという、そういうようなこともございまして、そういうものも含めて見直しをしてございます。

今ちょうどパブリックコメントを実施しておりまして、今日までパブリックコメントの実施期間となっておりますので、市民の皆様からいただいた意見等、あと、先日、この基本計画、市民184名の方が市民会議を作っていただいて、そこで素案を作っていただいたという計画になってございますので、その作った当時の市民委員の代表の方10名ほどと意見交換もさせていただいて、そこからまたいろんな意見もいただいてきておりますので、今作っている計画にそのいただいた意見をできるだけ反映させたいと考えております。

改正の内容ですけれども、冒頭に総論というものがございまして、この5年間で踏まえた内容に変えております。

人口推計も、前回作った時には平成34年度の人口はおおよそ59万人と見込んでおりましたけれども、先日行った平成27年の国勢調査では、2,500人ほど人口が初めて八王子市は減っておりますので、それも踏まえた形で、今、都市戦略部で人口推計をしているんですけども、約57万人という形で改めさせていただいております。

ただ、人口については、住民基本台帳で人口も捉えておりますけれども、この国勢調査を行った平成27年が、直近では一番底になっておりまして、ここ2年は、若干ですけれども、人口がまた増えているという、そういうような状況もございます。

それから、今の生活圏域ということで、21の区域に分けて、民生委員さんですとか、あと、高齢者あんしん相談センターですとか、そういうものを設置して、これから地域包括ケアを進めていくような形になっておりますけれども、歩いて通える範囲ということで、新たに生活圏域を中学校区にしていこうということも打ち出しております。

内容についてですが、ここでは細かくはご説明しませんが、大きく構成が、現状と課題と、それに対する施策の展開というのがあります。その施策がどの程度進捗しているかという指標とその目標値というものがございまして、現状と課題は、現行計画223ありましたが、改定後232に、9個増えておりまして、そのうち追加、変更等をしたものは200個にのぼっております。

また、施策の展開は、現行381ございまして、改定後は、これはちょっと減りまして375になりますが、追加、変更等に関わっている個数としては178。

指標については、現行71ですけれども、新たに施策の進捗を分かりやすくすることで、22個の指標を追加しております。

それから、附属資料としましては、中核市権限を活用した主な取り組みですとか、今後5か年の中期的な財政計画、そのようなものも掲載することにしてございます。

この後、先ほど申し上げましたパブリックコメントの結果も経まして、市の中で意思決定をとって、3月には公表したいと考えてございます。

それから、それに基づくアクションプランですけれども、これも事前に、予算と一緒に教育委員の皆様からご意見を頂戴したところがございますけれども、いつもは先にこのアクションプランを作って、それで実施する事業、施策事業を選択して、それに基づいて予算を作るという形をとっておりますけれども、今年度は、今ご説明したように、基本計画を中間見直ししておりますので、この中間見直しの内容も踏まえたアクションプラン、それから予算にするということで、アクションプランと予算を同時並行で作りました。

ですので、いつもですとアクションプランの具体的な選択事業等もご説明をさせていただくところですが、今年は、予算と一緒に作っておりますので、この後、財務部長と、あと各部長のほうから、事業については説明をさせていただきます。

平成30年度から32年度の3か年にわたる実施計画、アクションプランでございますけれども、これは予算と一緒に作りましたので、平成30年度の実施計画は予算と合致した形になっておりまして、それに基づいた平成31年度、32年度の計画ということで策定をしております。

これまで、返す以上に借りないということで、市の借金、市債を縮減する形で進めておりましたけれども、これからは市制100周年をここで迎えます。次なる100年に向けた、次代の子どもたちが明るい未来を過ごせるという形でまちづくりを進めていくということで、一定程度、投資もしていこうという形でアクションプランは作っております。

ここで、まちづくりに大きく関わるような事業も新たに顔出しをするところとなっておりますので、そういう形で予算のほうは若干平成31年度は30年度よりも増えるという形で、

それに伴う財源として、市債も少し増えるというような計画としてございます。

アクションプランの3つ重点項目を掲げまして、次の100年に向けた豊かな地域資源を生かしたまちづくりと、2つ目に、子どもを産み育てやすい環境づくり、3つ目としまして、地域で生涯活躍でき、安心・安全に暮らせる環境の確保、この三つを重点項目に取り上げて計画を策定しているところでございます。これはもうすぐ公表できる段階に来ておりますので、その時にはまた教育委員の皆様にも配付させていただきたいと考えております。

雑駁ですけれども、私の説明は以上になります。

○野村管理官 ありがとうございます。

今の計画の第3編が総合教育大綱になっております。この中間の見直しがまとまりましたら、また、お示しして、次回、教育大綱をどうするかという意見をいただこうかと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、財務部長に、平成30年度の予算案をご説明いただきます。

よろしくお願いいたします。

○立花財務部長 皆様、こんにちは。財務部長の立花です。

30年度予算を説明させていただきます。座ったまま説明させていただきますけれども、失礼いたします。

資料1の「平成30年度当初予算案における教育・子育て等に関連する新規・充実事業」の資料に基づいてご説明をさせていただきます。

まず、平成30年度予算の編成に当たりましては、教育に関して言いますと、市長から、次の100年を担う若い世代が中心なので子どもの施策を充実するよにということで、予算編成の中でも直接指示をいただいて、それをベースに予算編成を進めたところであります。

資料をめくっていただいて、1ページの30年度の予算（案）の概要でございますけれども、まずは、1、予算規模です。

一般会計予算規模、四角囲いしてあります、2、009億円ということで、前年比1.9%の増ということでございます。これは過去最大規模の一般会計予算ということであります。

その内訳が、その下に歳入歳出ということで円グラフに示してございますけれども、まず、右側の歳出の事業費です。

民生費につきまして、50%を超えて50.8%ということで、大半、民生費なんです、1つ飛んで、第3位に教育費が189億8,665万円ということで、構成割合が9.5%です。これは29年度が構成割合8.6%でしたので、全体の予算に占める割合の教育費が大きく伸びているということになります。

ちなみに数字は出してないんですが、民生費の中に、児童福祉費ということで、保育所ですとか、学童保育所等の経費、子どもに関係する経費が413億7,585万円あります。

これは全体の2,009億円に対しますと全体の20.6%ということになりますので、この民生費の中の子どもに関する児童福祉費と、それから教育費を足しますと603億円ということで約30%、全体の30%は児童と、それから教育に要する経費という割合になってござ

います。

その下の表を見ていただきますと、一般会計、それから九つの特別会計の計がございます。

左側は平成30年度の一般会計2,009億円で、その下、特別会計の計が1,976億5,177万円ということで、総計が3,985億5,177万円です。全体の計としますと、前年に比べまして、特別会計が132億円減となっておりますので、全体では減になっています。

これは午前中教育定例会で予算の資料で説明があったと聞いているんですが、特別会計の132億円の減のうち、大きく国民健康保険事業特別会計が、制度の移行で東京都が一括で処理すると、その制度変更で148億円減となっておりますので、それが大きく影響しているところです。

その午前中の説明の中で、母子・父子福祉資金の特別会計が3,400万円減になっている理由についてお尋ねがあったと聞いておりますが、これにつきましては、貸付事業でございますので、想定される貸し付けの件数が、前年度の当初予算で300件程度を見込んでいたんですが、それが290件と、想定される件数が減となっているものです。

これは、実際、平成29年度も当初予算で300件程度予定しておりましたが、今、実際、執行していきまして、貸付実績が、そこに到達しない程度で下がって、決算見込みも下がるような見込みでありますので、平成29年度の執行状況を見て、平成30年度の予算を実態に合わせて減らしたというところでございます。

それから、もう一点、一般会計の歳入で、寄付金について、前年度4,700万円減という理由ということでお尋ねがあったと聞いておりますが、これについては、たまたま平成29年度に、社会福祉基金へ、福祉のほうに寄附をしたいと申し出られた方から、7,000万円という大口寄付があったんですが、平成30年度はそういった特殊な要素がなく、一般的に3,000万円程度が平均ですので、今年は3,000万円と、そこで4,000万円の差があるということで、これも実態に合わせた予算を修正しているところであります。

全体の話とすると以上で、それから2ページへ行っていただきまして、一般会計の歳入歳出の主なものについて個々に掲載してございます。

歳入につきましては、市税は前年とほぼ同額、8,500万円減ですが、市税収入についてはおおむね前年並みということですが、大きくは地方消費税交付金が16億4,700万円減となっています。

こちら新聞報道等でご案内かと思うんですが、地方消費税について制度変更がありまして、配分の方法がちょっと変わりました、東京都全体で1,000億円程度減になるということで、八王子におきまして、ここで16億の減ということになってございます。

ただ、こちらにつきましては、地方財政制度の中で、普通交付税ですとか、あるいは臨時財政対策債ということで補填されますので、16億円減となりまして、それらの財源手当てはあるということでございます。

それから歳出のほうですけれども、大きく二点特徴がありまして、一点は総務費で、前年比11億円増となっています。これは、主な理由のところに公共施設整備保全基金への積み立て

とございますけれども、公共施設について、これは学校施設も含めて、老朽化が進んでおります。市としましては、今後30年間の修繕等に要する経費について試算いたしまして、今後、より一層建物の修繕にお金がかかってくるだろうということを見据えて、その財源対策として、新たに公共施設整備保全基金というものを設置しまして、これに積み立てを行うので大幅に増えたのが一点。

それから、教育費のところを見ていただきますと、前年比19億9,000万円ということで、約20億円の増となっています。こちらにつきましては、給食センターの整備で約8億円、それからいずみの森小中学校の工事が進捗しまして、こちらの事業費の増が13億円ということで、約20億円の増となっているのが大きな特徴でございます。

ちなみに4番に市債の状況ということでありますけれども、全部の会計を合わせた市債、借金の残高が1,999億円ということで、これは、以前、一番多い時で3,200億円程度の市債の残高、借金の残高があったんですが、毎年、その削減努力を続けてきまして、ここで2,000億円を切るという状況で、平成30年度につきましても、引き続き、財政の健全性を維持して借入抑制を行うことで1,979億円ということで、さらに市債の残高を減としているところであります。

それでは、次の3ページ、4ページで、教育・子育てに関連する事業について説明をいたします。

まず、1番から、学校教育部の予算で、給食センターの整備についてであります。

これは温かい中学校給食を全校で実施するために、給食センターを市内に7か所程度整備するというものです。

給食センターでは、地元の農家や、それから市内業者の皆様から優先的に食材を調達するというようにしております。それから、学校給食の提供以外にも、地域の食活動を支える場所、あるいは災害時の食事を提供する場所として活用してまいりたいと考えております。

平成30年度につきましては、叶谷町と南大沢三丁目の市有地で整備を開始いたしまして、この2施設につきましては、平成31年度の3学期から配食開始を予定しております。この配食開始の時点で、昨年の台風で被害を受けました加住小中学校の配食もそこから実施できる見込みであります。

次に、2番、3番になります。教員の負担軽減の取り組みといたしまして、部活動指導員とスクール・サポート・スタッフ事業を計上してございます。

部活動指導員につきましては、教員のかわりに、単独で部活動指導や、それから単独で大会への引率を行うものといたします。平成30年度につきましては4校に配置いたします。

それから、スクール・サポート・スタッフにつきましては、教員にかわりまして、学習プリントの印刷、あるいは授業の準備、採点業務の補助などを行う臨時職員で、全小中学校に配置するという予算立てをしているところでございます。

それから、次の4番の学力向上の取り組みの2つの事業です。

まず、アシスタントティーチャーにつきましては、3名の増員といたします。

それから、教員とボランティアによる土曜日及び放課後等の学習支援につきましては、土曜日で2校、それから放課後で7校の実施校の拡大を図る予算としております。

また、5番の情報教育の基盤整備でございますけれども、教育用コンピューターの更新に合わせて、通信ネットワーク機器の更新、これは充実になるんですけども、更新を行って、校内の通信ネットワークの環境を向上させる取り組みでございます。

それから、この資料にはないんですけども、地域に開かれて地域とつながる学校の実現を目指した地域運営学校につきましては、30年度で小中合わせて100校に設置することを目標に、そして平成31年度で小中学校全校への設置を完了させるという予定でおります。

次に、子ども家庭部の予算です。

6番の次世代育成支援で、事業としましては、赤ちゃんふれあい事業であります。

中学生に赤ちゃんやその家族と触れ合う体験を通じて、「命の尊さ」や「家族の絆の大切さ」、「子育ての喜び」を学んでもらう事業です。八南助産師会の協力のもと、全中学校に拡大して実施する予定でございます。

それから、7番の学童保育所の待機児童対策でありますけれども、平成30年度につきましては、いずみの森小中学校と恩方東学童、これは元木小学校区ですけども、この2か所の整備、それから四小と十小の校区でテナントを利用した増設を行います。

そして、さらに待機児童が発生する学校につきましては、小学校の教室を活用して、子どもたちの見守り、居場所を提供する事業もあわせて行います。

さらに、所管とすると次の生涯学習スポーツ部となりますけれども、8番の放課後子ども教室につきましては、週5日実施校、現在21校のところを35校に拡大・充実いたします。そして、全小学校で少なくとも週1日以上実施を平成30年度の取組の目標としてございます。

それから、9番です。スポーツ・レクリエーションの推進で、東京2020大会に向けた普及啓発事業になります。冒頭、市長からもお話しさせていただきましたが、この事業につきましては、昨年8月に開催しました市政100周年記念事業の「スポーツ推進フォーラム」におきまして、参加した中学生からいただいた提言を実現する事業でございます。

幅広い世代が楽しめる講演会や大会、あるいはプロスポーツ選手を招いた講演会、体験会など、これが必要であるという貴重な提言をいただきましたので、これを生かして、ジュニアを対象にした、オリンピックなどによるスポーツ教室や体験イベント、これを実施する予定でございます。

それから、10番の歴史を生かした魅力の発信でございますが、二点あります。

「日本遺産」認定に向けた取組と「歴史文化基本構想」の策定についてであります。

日本遺産は、地域の歴史的の魅力や特色を通じて、文化・伝統を語るストーリー。これは文化庁が認定するもので、現在、全国で54件が認定されているところであります。100件程度の認定を目指しているということでもありますけれども、八王子におきまして、まず市内で数々の文化財を把握しまして、文化財の保存・活用を行うマスタープランとなります「歴史文化基本構想」を策定しまして、そして本市固有の魅力ある歴史や文化財を物産、あるいは観光と結

びつけることで新たな魅力の発信につなげられるように、「日本遺産」の認定を目指して準備を進めてまいります。

最後になりますが、図書館部の2事業です。11番と12番です。

まず、「地区図書室の図書館化」ですけれども、「第3次読書のまち八王子推進計画」に基づきまして、図書館から離れた地域の利用者の利便性を図り、身近な読書環境を実現するということで、現在は、水、木、土にそれぞれ2時間開館という恩方市民センターの地区図書室につきまして、開館を毎日、そして時間を10時から5時の7時間開館へ充実・整備を図り、図書館法に定める図書館として整備するものでございます。

それと平成29年度から実施しております図書館システムの再構築によりまして、マイナンバーカードによる図書貸し出しを始めますのと、それから学校図書館システムとの連携で、図書資源の共有化を図ってまいりたいと考えております。

平成30年度予算については以上のような特徴がありまして、こちらにつきましては、来週月曜日、19日に市議会に議案を上程いたしまして、第1回市議会定例会でご審議をいただく予定となっております。

説明は以上です。

○野村管理官 ありがとうございます。

ご質問、ありますでしょうか。市議会でご審議いただくということですので、きょうは説明にとどめさせていただきます。

それでは、各部長さんに補足をお願いいたします。

○豊田子ども家庭部長 子ども家庭部長の豊田と申します。よろしくをお願いいたします。

私からは、まず、3ページの6、次世代育成支援ということで、事業につきましては、財務部長から、今、説明させていただきました。

現在、16校ありまして、年度内に8校行うということで、今年度は24校ということになります。平成30年度につきましても、この中学校を拡大していきたいと考えております。

それから、7番の学童保育所の管理運営につきましては、去年の4月に待機児童が283名いるということで、これにつきましても、学童保育所の整備、それからある一定の、10人程度ですけれども、待機児童がいた場合には、居場所対策ということで、これは社会福祉協議会に委託しながら、会に子どもを見守っていただくということと、それから、次に説明があると思いますけど、8番の放課後子ども教室、こういうことを駆使しながら、待機児童が出て、そういう居場所対策ですとか、放課後子ども教室、こういうところを使いながら、子どもたちの安全な居場所を確保していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

○野村管理官 次に、学校教育部長、お願いします。

○廣瀬学校教育部長 学校教育部長、廣瀬です。よろしくをお願いいたします。

それでは、予算案の補足説明ということで、私は、二点、給食センターと、それから教員の働き方改革について若干の説明をさせていただきます。

まず、本市の小学校給食でございますけれども、これまで食の安全性を確保するために、納

入規格を定めまして、全校でよりよい物品を確保すること、また、地元食材を活用した素材からの手づくり給食の提供、さらには郷土料理などによる食育教育というものが本市の給食の大きな特徴となっているところでございます。

一方で、中学校給食でございますけれども、高度成長期に急増する子どもに対応するため、校舎等、教育施設の建設が優先されまして、給食の実施が見送られてきたということがございます。そして、昭和44年に、中学校の完全給食実施に関する請願というものが採択されて以降、今日まで幾つかの取組がなされております。

平成14年から21年度まで、スクールランチ事業として市販の弁当をあっせんする事業を実施いたしましたけれども、学校給食法の要件を満たしていないということで、喫食率が数%で推移したというところがございます。

これに替わる給食といたしましては、学校給食法の要件を満たしました現在の弁当併用デリバリーランチ方式を平成21年からスタートさせたというところがございます。

衛生基準を満たすためにおかずを20度まで冷やす必要があるということで、当初から冷たい給食のイメージが定着いたしまして、現在、御飯、汁物を温かくしたり、最近ではクレジットカードでの支払いを可能とするなど、さまざまな改良をしておりますけれども、喫食率は現在22.56%、2,676人の喫食者となっている現状にあります。

また、平成25年から、小学校の給食室で調理し、中学校へ給食を運ぶ親子方式による中学校給食も実施しております。現在、4校で実施しておりますけれども、小学校の給食室を改修することなく、そのまま運べる学校が他にないという状況がございまして、1校、約3億円の改修工事と、そして工事期間1年間の給食を停止するということとなりますので、そこには多くの時間がかかるという状況がございまして。

このような理由から、市長の決断をいただきまして、八王子市の小学校で培ってきたおいしくて温かい中学校給食を3か年という短期間で実現するために、防災機能を備えました給食センター方式に取り組むこととしたものでございます。

そして、次に、教員の働き方改革についてでございます。

文科省の調査によりますと、教員の1か月当たりの平均残業時間42時間ということで、昭和41年度と比較しますと、5倍の増ということでございます。

また、OECDの調査結果によりますと、中学校教員の週当たりの平均勤務時間、これがOECD諸国の中で日本が一番長いということで、53.9時間という実態が明らかとなっております。

この大きな理由として、いじめや不登校などの生活指導上の課題、あるいは特別な配慮を必要とする児童生徒への対応など、学校の課題が複雑化、多様化する中、保護者対応、あるいは地域との連携など、学校に求められる役割が拡大しているとともに、部活動に従事する時間の増加などから来る教員の多忙化の現状というものが指摘されているところでございます。

国全体としても、今、働き方改革について検討が進められておりまして、中教審では、働き方改革にかかる緊急提言、あるいは総合的な方策というものを示して、子どもたちと向き合う

時間を確保する環境の整備に取り組む提案がなされたというところでございます。

また、東京都も先日の2月8日に、1週間当たりの在校時間60時間を超えて勤務する教員をゼロにしようということで、働き方改革推進プランを公表したところでございます。

本市としても、これまでストレスチェックの実施、あるいはノー残業デー、ノーメールデーの実施、そして教員の事務処理作業の軽減を図るということで校務支援システムを導入して取り組んできたところでございますけれども、今回、このような国、都の動きの中で、都の補助金、あるいは国の補助金を活用させていただいて、午前中の定例会でもご議論いただきましたけれども、スクール・サポート・スタッフの全校配置、そして部活動指導員を4校に配置ということで予算化できたものと考えております。

また、アシスタントティーチャーや放課後等の学習支援の充実もしっかりと行われたということ、そしてパソコンの更新に当たりまして、脱着式のタブレットパソコン、これを2,700台、そして1校6台の共用タブレットの導入も今後の効果が期待されるところでございます。

このほか、予算化された事業以外にも、本市独自の働き方の推進プランを教育委員会のみならず、教員の代表や保護者、地域も含めた方々と検討し、策定することで教員の働き方改革に取り組んでいきたいと考えているところでございます。

私からは以上でございます。

○野村管理官 ありがとうございます。

それでは、生涯学習スポーツ部長、お願いします。

○瀬尾生涯学習スポーツ部長 生涯学習スポーツ部長、瀬尾です。よろしく申し上げます。

生涯学習スポーツ部は、資料によりますと、4ページのところに幾つか事業を挙げさせていただいております。

私どものほうでは、生涯学習やスポーツ、それから歴史というようなことで、幅広くスポーツや学びで市民の方一人ひとりが、経験や知識、あるいは挑戦するような力をつけていただくということを主眼に置いているところですが、それ以外に、地域の方同士がそれをもとにつながっていたり、地域の力が高まったりという、生涯学習の本来広義の意味で持つところというのも意識しながら事業を推進しているところでございます。

一つ目に載っております放課後子ども教室につきましては、子ども家庭部とも連携をしまして、毎年、毎年、充実する事業として取り組んでおるところでございます。おかげさまをもちまして、少しずつ地域の方と話をしたり、相談をする中で、64校まで実施をしていただいているところでございます。

そうした中では、居場所対策ということがまず一番にはございますけれども、日々の活動を見ている中では、活動プログラムというのを重視してやっていただいているということもございますし、何よりも自由遊びの時間、外遊びをするということが、子どもたちの大人になっていく過程での育ちの中では、集団でのルール、あるいは皆で行動すること、思い切り外で遊ぶことというような経験をすることが、とても有意義な時間になっているというところがあると感じているところでございます。

地域の方々が多く参加していただいているという事業でもございますので、子どもたちを囲みながら、生涯学習の点も引き続き大事にして取り組んでまいりたいと考えております。

また、十分、拡充についてもまたご相談をし、地域の実情に応じた形で行ってまいりたいと思いますが、継続についても大事な事柄だと思っておりますので、現在、実施していただいている放課後子ども教室につきましても、十分な目をかけて進めていきたいと思っております。

また、9番と10番ではスポーツと歴史の事業を載せさせていただいております。

昨年、市制100周年事業ということで、歴史やスポーツについて取り上げた事業も多くございました。そういった中では、スポーツや歴史については、単独の効果というよりも、多面的な効果というのが期待されているということを感じたところでございます。そのような流れは感じていたところでございますが、この市制100周年事業を通じて明らかになったと感じました。

ということで、スポーツにつきましても、個人の健康づくり、あるいはコミュニティの形成ということ、それに見るスポーツ、さまざまな多面的な効果ということで、そのあたりを出していくという取り組みを進めているところでございます。

先ほどお話にありましたように、ビジョンフォーラムの中では、多様なスポーツの魅力に触れていくことが重要だというようなご意見もいただいておりますので、来年度につきましても、オリンピックなどに来ていただいて、子どものスポーツについての育成の事業を進めてまいりたいと思います。幸いにして、八王子は多くの大学もございまして、縁のあるオリンピックの方などもおりますので、そういう大学などとも連携をして進めていきたいと考えております。

一方、歴史につきましても、ビジョンフォーラムの中では、「未来に生かそう」、「それぞれの時代の八王子の魅力を知ることが大切」というようなご意見をいただいております。

八王子の魅力を歴史を通じて生かすという時代に入ってくるということもございまして、文化財の保存もちろん今後とも大事にしていきますが、活用ということに目を向けた、来年度、ある意味、その初年度ということで、今まで点ということで捉えていた歴史のいろいろな文化財の資料についても、総合的に把握しまして、目指すべき活用や保存・活用の方向性を示すということで、歴史文化基本構想の作成に取り組むということにしております。

あわせて地域の資源をストーリーを持って活用していくということから、日本遺産という、歴史遺産ストーリーや地域資源を活用するという文化庁の施策がございまして、日本遺産の申請に向けた準備についても進めていきたいと考えております。

ここに記載はございませんが、施設管理も多くしております。昨年はこども科学館のリニューアルをしまして、多くの子どもたちに今も訪れていただいているところでございますが、来年度につきましても、富士森の陸上競技場の改修や、あるいはテニスコートのリニューアルを、順次、進めておりますので、そちらのほうも予定してございまして、スポーツ環境の整備にも取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○野村管理官　　ありがとうございます。

それでは、図書館部長、お願いします。

○石黒図書館部長 図書館部長の石黒です。

それでは、図書館部の二つの事業についてご説明いたします。

まず、「読書のまち八王子」の推進ですが、これは、現在、八王子市内の市民センターで実施されている地区図書室を図書館化する計画の一つで、来年度は恩方市民センターの整備を行うものです。一昨年に、みなみ野分室を作りましたが、その図書館化する前と図書館化した後の効果を調べましたところ、利用者が約4倍、貸出冊数が7倍ということで、特に小学生と高齢者の利用が多いという傾向が明らかになっております。

八王子市全域の高齢化率は平成29年12月末日現在で26%ですが、この恩方市民センターの回りの地域は、34%とかなり少子高齢化が進んでいる地域になっております。

ですので、平成30年度の図書館への整備によって、多くの高齢者の方の利用が見込まれるとともに、思いとしましては、近隣のお子さんたちがこれまで以上に読書を好きになっていただきたいなと思っております。

次に、図書館システムの管理運営です。

こちらは金額が入っていませんが、2年度にわたっての整備となっております。

平成29年度、今年度は、約4,700万円かけまして、今、更新の準備を進めているところ です。

これによって30年4月からはマイナンバーカードを利用した本の貸し出しが行われます。

これは都内では豊島区だけが現在行っておりまして、八王子は4月から、2番目となりますが、多摩地域では初めてということになります。

それから、平成30年4月からは電子書籍の貸し出しも行います。また、平成30年度は、約4,000万円かけまして、公立図書館と学校図書館のネットワーク化を図ります。これによって、学校同士、それから公立図書館の蔵書検索等が可能になってきます。このシステムを作って、それをどういうふうにか小中学校で活かしていくかということは、平成30年度中に学校と詳細を詰めていきたいと思っております。

以上です。

○野村管理官 ありがとうございます。

それでは、いろいろご説明いただきましたけれども、教育長、いかがでしょうか。

○安間教育長 まずは、市長には、子どもの教育の質の向上のための予算を始め、本当にご配慮いただいたことに感謝申し上げたいと思います。

前回の総合教育会議で申し上げたような、学校の授業の質を上げるための幾つかの取組、その場でも市長から、「これはいつでもできそうなものじゃないか」という心強い言葉をいただきました。本当にこうやって実現してくるのを見るとうれしく思っております。

ちょっと1個だけ突っ込ませていただくと、例えば2番、3番目のところの内容の説明文のところに、「教員の負担を軽減するとともに」とか、「教員の負担軽減を図り」というのが、私、実はちょっと違和感を感じるのです。

教員の負担を軽減するために施策をやっているのではなくて、あくまでも目的は、子どもたちの授業の質の向上。だから、先生たちが授業の質を向上させるためにお勉強する時間をいっぱい作りましょう。研修がもし教員にとって負担なのだとなれば負担になって結構。むしろ、そこを一生懸命やっただけで自分の授業に集中してもらいたい、そんな思いがございます。

部活動指導員の配置にしても、これはその競技に関する素人がいやいや顧問をやらされているんじゃない、子どもがかわいそうだろうと。だから、専門的な指導員を置きたいというような思いが本音のところではございます。

スクール・サポート・スタッフにしても、先ほど申し上げたように、教員が授業に集中できるようにするために、例えば袋詰めだとか、何かを集計するだとか、そういうことは教員じゃなくたってできるじゃないか、それはやってもらいましょう、この人たちに。だから、その分、あなたたちは子どもたちの授業に集中するんですよ、そんな思いがあるということ、ぜひ、お酌み取りをいただければと思っております。

このように実現をさまざまな場面でしていただいた以上、あとはこれをどのように成果として目に見えるようにしていくかということでございますから、今年度はとにかく全力で取り組んでまいります。

ただ、もう一つ、問題意識。この学校教育だけではなくて、生涯学習関連についてもこの総合教育会議でぜひ意見交換をしていきたいと考えておりました、今日も午前中の定例会でそのようなお話を教育委員会の委員さんにさせていただきました。

まだ、まとまった議論をしていませんけれども、本日は教育委員の皆様のそれぞれの思いやお考えなんかも聞かせていただければと思っております。

言い出しっぺですので、私のほうから、今漠然と考えている生涯学習関連のことを三つの視点からお話をさせていただきます。

まず、一点目は、子どもと一緒に進めるまちづくりという視点なんです。

先ほどもお話しさせていただいたように、本年度、教育課程に、学校は市制100周年の取り組みを続けて、全校で実施をしてきたわけです。その成果として、いろんな提言もありましたし、先ほども冒頭のご挨拶で申し上げたとおり、市長から、子どもの提案の中の一つのものを具体化して実現できたと、こういうのは子どもたちにとってもすごい喜びにつながるんだろうなと思っております、その辺は教育委員会の中でもいろいろ議論になっております。

来年度以降も、恐らく中学生サミットを母体にしたという形になると思うんですが、自分たちの目先の生活の問題を話し合うだけではなくて、その中で子どもたちに、八王子の未来、こんなことがあれば良いとか、こういうふうになるともっと良いのになというような議論してもらって、そして、その中でもし実現できるものがあれば実現をしていただくと、そのような形でつなげていくことが子どもたちにとって生涯学習の基礎になるんじゃないかなということを考えてございます。

学校教育の中だけで子どもたちの会話が閉じていますと、自分たちの思いというのが具体化するというような実感を味わえないまま成人になっていってしまうんだろうなと。

何とか、少しでも八王子市は僕たちの考えていることを実現してくれる、そして僕たちでも八王子市に寄与できるんだという、そんな思いを持たせてあげたいと考えてございます。

さらに、そういう経験をした小中学生が、高校、大学に上がる上で、八王子市とちょっと切れてしまうような気がしております、ぜひ、生涯学習の視点で、高校生、大学生も今の中学生サミットとのつながりの延長の中で、今年は中学生サミットに高校生が参加するなんてことがあったわけですが、そういった仕組みを取り入れて、要するに大人に成長するまで切れ目がないようにこの八王子市政と子どもたちがつながっていく、そういうことができないのかな。

そのために高校生とか大学生の年齢の人が、地域の行事だとか、ボランティア活動など、そういったものを通じてまちづくりに参加して、自分の意見を発表する場、こんなことを考えてございます。

二点目は生涯学習社会の実現という、視点でございますけれども、今回、成人式の対応でも、本市の生涯学習講座で着つけをしている講師の方々も、何人もそのボランティアの中にいらっしゃいました。

要は、生涯学習としての学びが地域づくりやまちづくりの中で生かされる、これも同じようなことなんですけれども、市民の主體的な活動に発展するとか、地域の課題解決につながるとか、そういうような具体化というものが非常に重要なんじゃないかなということを考えております。

さらに、福祉的な分野との連携とも言えますけれども、地域包括ケアシステムの基盤になり得るのも生涯学習で学んで、学びを地域に生かして市民の活動につなげていくと、そういうことなんだろうと考えてございまして、何か、そういう仕組みが考えられないかなということを、今、考えているところでございます。

最後に、三点目はスポーツ振興とか文化財の保存・活用です。

生涯学習の施策としては、スポーツの振興や文化財の保護・活用も非常に重要なんです。

これは私の細かな課題意識なんです、今日も教育委員会の定例会で、中学生が東京駅伝で東京都内でずっと3位以上の成績であるとか、さらに中学校の陸上部の男子は、これで東京都で10連覇しているんだとか、そういうような話題が飛び交いまして、そういう話を、体育協会でお話しすると「えっ、そんなだったの。すごいね」なんてことを言っていて、何か、つながっていないなという気がしてしましまして、本市の中学生がそれだけの力を持っているならば、その間を橋渡しして、体協とつながっていくような、そんなことがありさえすれば、八王子市の体育協会の10連覇どころじゃなくて、20連覇、30連覇、40連覇も可能なんじゃないかなんてことを、ふと妄想しております。このつながりを、ぜひ、考えていきたいというのが私自身の問題意識です。

もう一つ、文化財については、先ほど生涯学習スポーツ部長からもお話があったとおり、私の一番の夢は日本遺産であります。

何よりも八王子の歴史的な魅力だとか、風習をストーリーで語るというのは、これはもう学校教育にもぴったりくる中身でございまして、観光課であるとか、市長部局とともに構想して

いかなきゃいけないなと思います。今、図書館の問題や新郷土資料館の問題など、私どもの内部で議論しているわけですが、今日の教育定例会でも申し上げましたけれども、これを大きな今のストーリーの中にしっかりと盛り込んで、市全体として構想していくようなことが何かできないのかなと。そうすると、高尾山だけで帰ってしまうのではなくて、観光の人たちがそこをぐるっとまわって、その回遊の拠点に、新しい資料館がなって、そして本市の子どもたちもそこで学んで交流していくとか、何かそんな循環ができないかななんて夢のようなことを考えているわけですが、この辺についても、教育委員さんと議論をしながら実現してまいりたいと考えてございます。

以上、学校教育以外の中身について、三点ほど、現時点での私の思いということでお話をさせていただきました。

○野村管理官 ありがとうございます。

それでは、教育委員、村松委員からお願いできますか。

○村松委員 皆様、こんにちは、村松でございます。

まず初めに、教育・子育て等に関連する新規・拡充事業で、石森市長を始め、市長部局の皆様、いろんな形でご配慮、ご尽力いただきましてありがとうございます。

中でも部活動指導員、また、この総合教育会議でもいろいろとお話をさせていただいているスクール・サポート・スタッフを新規事業で取り組んでいただきまして、ありがとうございます。

先ほど、教育長もおっしゃったように、これで予暇ができるから楽ができるというわけではなくて、子どもたちと向き合う時間、子どもたちに目くばせをする時間を作ってもらい、また、しっかり勉強してもらって、教員の資質向上を図ってもらうためにお願いをしているわけで、引き続き、市教委としては、先生方に一生懸命勉強してもらいたいという取組をしていきたいと思っております。

そして、これは生涯学習ですけれども、生涯学習といいましても、かなり幅広いので、本当は30分ぐらい時間をいただきたいところですが、私は、生涯学習の、やっぱりスポーツに着目しております。

これはなぜかと申しますと、自治会で運動会などをやっておりますけれども、そのスポーツで地域とどう結びつけていけるか考えさせていただいております。八王子はスポーツ施設の充実と、たくさんの公園を有して、サッカーやバスケットのプロチーム、また、ボルダリングのワールドカップの開催、東京都市町村総合体育大会11連覇、先日の駅伝大会やオリンピックも輩出して、スポーツのまちとしての魅力も兼ね備えております。

昨年末、キャッチボールクラシック全国大会を中央大学多摩キャンパスで開催しまして、全国の予選を勝ち抜いた小中学生約740名に加え、保護者、監督ほか、各球団12名のプロ野球選手に集まっていたいて、八王子の市民力を生かして、小P連、中P連、青年会議所の皆様スタッフがなって、市制100周年記念事業として八王子市キャッチボール大会を同時開催し、大変大勢の皆様にご来場いただきました。市長、また、市長部局の皆様にはご支援、ご

協力ありがとうございました。

このキャッチボール事業は、小学校の特別活動としても行っておりますが、新たな取組として、昨年、上壱分方小学校と、恩方第一小学校は、授業の一環としてではなくて、PTA主催として、地域、保護者を呼んで、児童と一緒にキャッチボールクラシックを取り行いました。

ここで、地域の皆様は、元プロが来るということで、大変沢山の方が集まっていたいて、また、ふだん忙しくて、お父さんと遊んでもらえない子が、キャッチボールをして、大変満面の笑みでやっておりましたけれども、この中で、町会長さんが一人でキャッチボールできない子を誘って、投げ方を教えてあげたりとか、また、その地域の大学生が中学生に投げ方を教えたり、高校生が小学生に走り方とか、その場で教えていたんですね。これは、小学校の縦割り班活動ならぬ、町会の縦割り活動として、誰に言われたわけでもなく、その場で交流ができていました。地域で学ぶ時も、また、いろんな清掃活動ですとか、まず、こうした縦の交流を設けることが大切なんだと改めて思いました。

このPTA主催の地域を巻き込んでのキャッチボール事業が、地域人材の育成や、また、保護者、子どもたちが普段会わない町会の方々と一緒になって取り組めるのがスポーツですけれども、スポーツ庁が今月発表した全国体力調査では、全国的に投力と握力がまたさらに結果が下がりまして、体力向上に向けて、平成33年までに成人の週1回のスポーツの実施率を65%に引き上げる目標を掲げています。

今回の予算案の中に、スポーツ・レクリエーション推進の項目がありまして、先ほど市長からもお話がありましたけれども、スポーツ推進フォーラムでパネリストとして参加した中学生から、オリンピックやプロスポーツ選手によるスポーツ体験イベントを開催したいという提言がありましたけれども、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、もちろんこの野球だけではなく、さまざまなスポーツを取り入れたイベントや、プロ選手を招いての講習会を、学校を中心に、学校運営協議会を中心に開催して、さらにスポーツのまち八王子を目指していければ、地域、また、学校、このコミュニティをつなげられる、そういう場になるんじゃないかなと思っていますので、皆様にもご理解、また、ご支援いただければなと思っています。

以上です。

○野村管理官　ありがとうございます。

それでは、柴田委員、お願いします。

○柴田委員　私からは、三点、考えを述べさせていただきたいと思います。

生涯学習の取組につきましては、先ほど瀬尾部長もおっしゃってましたとおり、生涯学習を通して地域の力を作っていくということや、コミュニティ形成ということが成し得るという、そういう可能性を持ったところだと思います。まちづくりにとても深く関わる施策を作り得るところだと思います。

そこで生涯学習というところは、ゆりかごから墓場までとよく言われますけれども、全ての発達段階の方を対象とした事業です。

そこで、例えば、先ほど教育長もおっしゃっていましたが、生涯学習を子どもと一緒に取り組めるといところで、ここを重点化して、先ほどご紹介いただきました市制100周年記念事業の中学生による政策提言、こういったものを1つ実現化させるということだけでもとても素晴らしいと思うんですけれども、せっかく8つ出していますので、その芽を潰さないように、少しインキュベーターというか、その可能性をふ化させるような取組、そういったバックアップというか、支援事業を、長い目で、生涯学習事業としてやってみてはいかがでしょうかと思います。

また、子どもだけに限らず、個々の住民の、個人の思いや、それから生活をしている上の課題というものを社会課題として吸い上げるような取組としまして、生涯学習の講座が企画運営されることを希望いたします。

個人の思いが社会の課題として顕在化していった時に、やはりその個人が活動家としてまちづくりに一生懸命取り組むと思います。そういった事例がたくさんありますけれども、そういったところを、指導とか教育を行政が行うというのではなくて、市民のそういった思いというものを尊重していきながら後方支援をするような施策というか取組、こちらを求めたいと思います。そのためには、やはり職員の立ち位置というか、支援者の力量というものが問われると思いますので、その辺が検討課題になるかと思います。

それから、二点目ですけれども、この高齢社会の中で、やはり高齢者が最後までいきいきとこのまちで生きて、そして生涯を閉じていく、生きがいということがよく言われますけれども、死にがいというものも、これからまちづくりを考えていく上で重要なポイントになるのではないかと思います。

そこで、よく高齢者の生涯学習事業は、健康増進とか、趣味とか、そういったものにとどまったり、仲間づくり、こういったものがよく盛んに行われていますけれども、やはり高齢者も最後まで自分を高めるための学びを行いたいという思いを持つ方もたくさんいらっしゃると思いますので、高齢者がより学べる環境づくり、例えば他市で生涯学習の研修を行った時に出てきた住民の方からのアイデアに、介護付きの生涯学習事業というのがこれからの時代にあっても良いのではないかとというような斬新なアイデアが出てきたんですけれども、育児中の母親対象としては、保育付きの講座各種で盛んに行われていますが、これからは介護をしている人もリラックスできて、その時間、自分の学びもできる、そして介護をされている人も、自分を高めるための学びを生涯最後までできるような、そういった体制というものも視野に入れていただきたいというのが希望でございます。

そして、三点目は、これからキーワードとなるのは、ネットワーク型行政、連携ということだと思います。先ほども、学童保育事業、子ども家庭支援事業と、それから放課後子ども教室という生涯学習の事業の連携の必要性といところが施策に盛り込まれているというお話を伺いましたけれども、生涯学習事業と学校教育の事業の連携というものが、これから切り離せないものになっていくと思います。

八王子市が、教育長の大号令で来年度にはコミュニティ・スクール100校となるということですが、多分、この数値は、100校となったら、今、世田谷区が都内コミュニテ

ィ・スクール設置校数が一番多いですけれども、それを超えて八王子市が一番になるんじゃないのかなと思います。

そういったことも契機としまして、地域運営学校では、住民と保護者、それから学校教育に関わる方たち、そして教職員、こういった人たちが熟議をする場ですけれども、その熟議をしたことがしっかりと実現化されるための学校支援協働本部という場が、今までの学校支援地域本部がバージョンアップしたようなこの協働本部というものを設置するという構想プランが文科省から出ていますけれども、その協働本部を作る上で生涯学習事業が大きな役割をこれから果たしていくのではないかと思います。

やはり協働本部の要となるのは学校と地域を結ぶコーディネーターだと思います。コーディネーターは、地域の様子、そして学校の様子もよく知っている方が望まれていますけれども、こういったスーパーコーディネーターという人は全国に何人かいらっしゃいますけれども、その方たちの活動がフェイドアウトしていくとその学校と地域社会との連携事業もフェイドアウトしてしまうので、そうではなくて、誰もが担えるコーディネーターの養成というところを生涯学習事業で行っていただければありがたいと思います。生涯学習の例えばセンター事業や講座などから始めてみるのも一つなのではないかと思います。

以上です。

○野村管理官 ありがとうございます。

それでは、笠原委員、お願いします。

○笠原委員 本当にかくさんの子どもに対する教育に関する計画として、それに対する事業案、大変すばらしいと思っております。

私からは、二点、お話しさせていただければと思います。

一点目は、具体的にはここにはあまり挙がっていないのですが、子どもたちへの情緒面への教育、教育長がよくおっしゃっている自尊感情を育てるというようなことにもつながるのかなと思っておるのですが、あえて命の授業などのようなものへの取組なども、もしご検討いただければなと思っております。

と申しますのは、やはり近年、子どもたちが実際に人の命に関わる場面というのに会うことが非常に少なくなっております。それに伴って、ゲームですとか、そういうバーチャルな世界の中で、何か、リセットが効くみたいなことが多くて、実際には命ってそんな簡単なものじゃないよということをちゃんと教える機会があると良いなど、日ごろから思っております。

そういうようなことを取り組める現実の何らかの機会、ここに、例えば赤ちゃんに触れ合う事業などは非常にそういうのに近い、そういう感覚を多分惹起してくれるようなものではないのかなとは思いますが、一方で、生涯学習という点から見ると、横つながりに行けば、おじいちゃん、おばあちゃんの本当に介護場面とか、看病を一緒にやってみるとか、そういうことも命ということに関わる大事なことかなと思ひまして、少しその人の命に関する教育というものがあつたら良いなど日ごろから考えております。

もう一点は、特別支援教育に関するお願いです。

やはり近年は、八王子市は高尾山学園を含め、本当にたくさんの、充実した対策がとられている市だと心から思っておりますが、その一方で、やはり難しいお子さんというのが増えていることは事実です。その難しいお子さんたちは教育をととても受けにくい状況にあります。

例えば、発達障害でも型どおりではない。一般の先生方が一般の工夫をしていただいても、教室にはなかなかなじまないですとか、あるいは虐待を受けた後のお子さんたちの情緒の問題が絡んだような教育現場の問題、こういったもので先生方を大いに心配させているところだと思います。

これには、恐らくお一人の先生がお一人で抱えたら大変だという問題がたくさん含まれておるので、恐らく支援される先生方、補助の先生方、先ほど柴田先生がおっしゃっていましたが、そういったスペシャルな教育を受けた先生方がいてくださること、それはもちろんとても大事なのですが、本当に一人ひとりの現場の先生のお力がついていただくこと、これもすごく現場には役立つし、子どもたちにそれが一番大事なことではないかと思っております。

そういったことを、単なる研修というだけではなくて、何かの実践を含めたあり方で先生方にそういった機会を作っていただければ、子どもたちのためになるのではないかと考えております。

以上です。

○野村管理官 ありがとうございます。

教育委員の意見を伺って、市長、いかがでしょうか。

○石森市長 非常に幅広いご意見、頂戴いたしました。ありがとうございました。

冒頭、お話ししましたけれども、教育長が、常々、子どもの意見を何とか予算化なり、施策に反映してほしいというような、そんなことを言われております。引き続き、冒頭、お話ししましたとおり、大事に、できるものはできるだけ取り組んでいきたいと思っております。

生涯学習は、我々、どちらかというと、皆様は違うのかもしれないけど、どうしても高齢者をイメージしがちなんですが、今のお話を伺っていて、教育とのつながり、それは非常に大事だと思っておりますので、いろんなお話を伺って、これはいろいろ取り上げなくちゃいけないなど、今、実は思いましたけれども、委員の皆様のご意見を参考にしながら、また、生涯学習等につなげていきたいと、そういうふうに思っております。

○野村管理官 ありがとうございます。

次に児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査について報告を予定していたんですけれども、私の進行のミスがありまして、本日は時間が押してしまいました。誠に申しわけございません、先ほど村松委員からのご発言がございましたように、今日の新聞にも載っております、子どもの体力というものの報告もございましたので、それとあわせて、次回、報告をいただきたいというふうに思っております。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○野村管理官 すみません、この後、市長、教育委員会、それぞれご予定が入っておりますので、本日の総合教育会議は以上で終了したいと思います。お疲れさまでした。

ありがとうございます。

【午後2時50分閉会】